

- 子どもたちは、“常に今”を、精一杯に生きている。
病気でもない限り、子どもたちはのびやかで力に充ち、その子なりに1人ひとり輝いています。彼らにとって、必要で大切な時間は常に“今”です。明日のためにではなく、その子らしく今を生きているのです。後先は念頭になく、だからわがままに見えます。でもそれが子どもの本来の姿なのです。
子ども大人はそうはいきません。常に明日の事が心配、「このままではどうなるの？」明日のために今日という日を懸命に生きています。社会の波に乗り遅れないように、絶えず気を使っていなければなりません。しんどいですね。
- 社会は急速に変化しています。心配や不安は次々と限りがありません。「神経症やノイローゼのもとは、社会不適応ではなく、社会の適応過剰症だ」『現代人の心』(島崎敏樹)だそうです。

○ 「『ありがとう、ごめんなさい、どうぞ』これら三つの言葉を身につけていれば世界中旅行できますよ」(犬養道子)

子育てであれ、夫婦、家族、友人・・・関係の中でつまずきや挫折はつきものです。人生のマイナスと思える失敗、挫折などの日常の経験を聖書は「感謝しなさい」と勧めています。なぜでしょうか。飛躍するように感じられるかもしれませんが、これは「人間に与えられた自由」の表裏です。つまり、子どもは人生の歩みの中で「感謝する」ことも「不平や不満」のつぶやきに生きることも自由なのです。この自由によって人間は自律し、責任ある生き方をするように求められているのです。それが人間の特性であり、光栄です。日常の経験の中で「感謝」か「不平」か、どちらの感じ方もあなたの自由なのです。

.....
できることなら、あなた自身のために「感謝」する自由に生きてごらん、あるいは「ありがとう」探しの心で歩いてごらん。そのように心がけていたら、きっとそのような人生になりますよ！と聖書は語りかけています。

小さなことから、子どもたちの中に家族、友人との交わの中に「ありがとう」を探してみませんか。実にそこにこそ、「神様の祝福のしるし」が宿っているのです

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんな事にも感謝しなさい」